

せ と る C E T L Quarterly

教育・学習活動支援センター広報 No.39

発行日 6. June. 2010

巻頭言 「学士課程教育機構」の目指すもの

学士課程教育機構長 寺西 宏友

本年4月に発表された、50周年へ向けた「グランドデザイン」の中で、本学の教育改革に関わる諸施策が打ち出されました。その中に、「学士課程教育機構」の設置があり、本年4月にスタートを切ったところです。この機構のミッションとヴィジョンについて、考えてみたいと思います。

グランドデザイン策定のプロセスで、同策定委員会から示されたタスクは、基本的に本学の共通科目に関する教育を充実するための施策の検討ということでした。従来、共通科目に関しては、共通科目運営センターという委員会方式の機関が、責任を負ってきました。このセンターでは、各学部長も種々の科目群の責任者を務めるという形で、全学挙げて取り組む体制をとってきました。新たな機構の中でも、各学部長等には、引き続きその役目をお願いしています。しかし、各学部長をはじめ、科目群の責任者にとっては、各学部やセクションの責任に加えてのタスクとなるため、担当する科目群に関わる新たなアイデアを発想したり、それを実現したりということは、かなり難しいことでした。

そこで、共通科目として提供している全てのプログラムの点検、評価、改善というタスクを、

専門的に行う機関の必要性がクローズアップされました。また同時に、それらのプログラムが、各学部で提供される専門教育に関わるプログラムと、連動する必要性も検討されました。これは、数年来、高等教育界で強調されている「学士課程教育」という考え方そのものに通じる問題意識です。今回の新機構の設置を検討する過程で、名称をどうするかと考えた際に、現状で出来ることはともかく、将来的にこの機構が目指すべき目標をしっかりと表現するものにしようということで、そのものずばりの「学士課程教育機構」ということに落ち着きました。

以上の経過を踏まえ要約すると、この機構が担うべきミッションは、1つに「共通科目」の点検・評価・改善ということになります。2つには、各学部の専門教育と連動・補完する教育プログラムを、共通科目として提供することとなると思います。さらに、この2つに加えて、新たな機構には、「教育・学習活動支援センター(CETL)」も包括されることとなりましたが、上記2つのミッションに共通する教育・学習活動支援も行うということになります。このように述べてきますと、大変に壮大な目標で、果たして本当に実現できるのだろうかという思いに駆

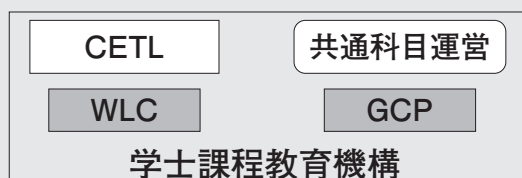
られます。特に、今回の発足にさいしては、機構独自で専任教員を置くことが出来るとしていただきましたが、実際には機構長の私の他、専任の方3名という体制での出発です。この機構に所属する関係者だけで、創価大学全体の学士課程教育に関わる全ての課題に取り組むことは、到底困難なことです。そこで、今後この機構が仕事を進めていく上で、最終のゴールを見据えた上での段階的な目標設定と、それを実行に移すロードマップが必要になります。まだ完全に描き切れてはおりませんが、スタートに際して、とりあえずのものをご提示させていただきたいと思います。

「グランドデザイン」の教育改革に関するアイデアの一つとして、本機構の設置と並んで、新たな教育プログラムである「グローバル・シティズンシップ・プログラム」(GCP) が開設されました。これは、学長を中心とする策定委員会の強い要望で、いわゆるオーナーズ・プログラムのようなものの検討を命ぜられたことから、生まれたものです。約2年間の検討を経て、本年4月にこのプログラムもスタートをいたしました。そして、このプログラムの運営も本機構のタスクとなっています。このGCPは、本学の全ての学部 to 所属する学生から選抜された30名に（実際は32名でスタート）対して、本学の目指す人材育成の目標実現を目指すプログラムです。参加する学生は、各自の所属学部・学科のカリキュラムに加えて、GCP独自の追加的カリキュラムを履修することになっています。このプログラムを策定していく上では、各学部から総勢20名の協力教員の方々（ワーキング・グループ）にご参加いただき、具体的なカリキュラムを練りに練ってきました。そして、カリキュラムの中

で達成しようとする学習成果（アウトカムズ）を明確にし、GCP全体としてのカリキュラムマップに落とし込む作業をしました。実際に科目を担当いただく教員のお一人お一人には、その科目の中で達成すべきアウトカムズを明確に意識していただくと同時に、各科目がこのプログラムの全体の中でどう位置づけられるかという認識をもって臨んでいただくようにしています。また、チュートリアルという教員1人に学生5人という単位での、一人一人の学生の学士課程の中での「道案内」を施す工夫もしました。これらすべての工夫は、本学の学士課程教育改善に必要となると考えて、設定されています。このGCPの試みが、当初思い描いた通りに機能するかどうかは、まさに始まったばかりですので、何とも言えませんが、このGCPでの経験とその結果の精査が、必ず本学の学士課程教育の充実に資することとなると思って取り組んでいるところです。

また、さらにはCETLが昨年度のGPを獲得した「初年次教育」に関する取り組みも進行しています。この取り組みも学士課程教育の再構築に重要なものといえます。

新たに発足した機構として、GCPやCETLでの試みを着実に実行し、その結果を評価・分析することから始め、それを大学全体に発信していくことを当面のミッションと考えているところです。まだ、海のものと山のものともつかない存在ですが、多くの方々に見守っていただき、ご理解をいただければと願っております。



副センター長あいさつ

CETL副センター長 望月 雅光

新任のご挨拶

本年4月1日より、西浦昭雄前副センター長の後任として着任しました。経営学部の望月です。微力ではございますが、今後も学生の皆様、教員の皆様のお役に立てるセンターをめざして教育・学習支援活動に邁進してまいります。特に、eラーニング教材の開発やICT活用教育を推進し、任期中にその基盤を構築したいと思っています。また教育支援GPの取り組みであるエリ

ア限定ワンセグ放送の活用実験も推進します。これは、エリアが限定されているとはいえ、立派な放送局ですので、総務省から実験試験局の免許を受けています。

これ以外にも新しい取り組みを試行し、導入してまいります。このためにも自ら学んでいくことを怠らないように心掛け、精一杯努めますので、よろしくお願いします。

今年度第1回教育サロンを開催

4月23日（金）文系A棟第2会議室で、午後4時半から6時半にかけて、平成22年度最初の教育サロンを開催しました。サロンでは、テネシー州高等教育局IR担当主任として活躍している柳浦猛さん（本学27期生）をお招きし、IR（Institutional Research）の実際について、その仕組み（体制）と機能（効果）についてお話いただきました。

教職員合わせて20名を超える方が集まり、熱

心に質疑応答が行われました。本学におけるIRの在り方、データ駆動型の教育改革について示唆に富むサロンとなりました。



柳浦 猛 講師

今年度第1、2回CETLセミナーを開催

第1回CETLセミナー

今までCETLではFDセミナーとCETL勉強会という2つのFDイベントを行っていましたが、今回これらを合わせ、CETLセミナーに名称統合しました（開催は年6回以上）。

今年度最初のCETLセミナーは、4月30日（金）4時50分から6時30分まで、文系棟A424教室で

開催されました。38名の先生方が様々な学部から参加されました。

セミナーの講師に、久留米大学文学部の安永悟教授（日本協同教育学会会長・日本初年次学会理事）をお招きし、授業における話し合い学習・討論学習の工夫について、ご講義いただきました。

参加者の声 (アンケートより 回答者数=27)

- ・学生の討論がうまく進んでいないときに、あえて介入せず、学生を信じて見守るという方法とその意義に感銘を受けました。毎回の授業で、見通しや授業の価値を語ることも有効であると感じました。



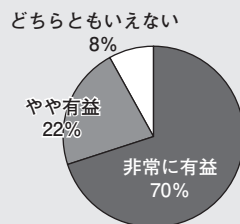
安永悟先生

正直なところ、こうしたセミナーに参加することは初めてで、その内容は新鮮でかつ有益なものだと知り、

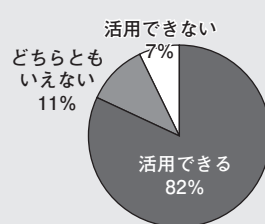
驚きました。今後の授業に活用させていただきます。

- ・自然科学系の授業でどのように授業中に討論を取り入れたらよいのかが、具体的にイメージできなかった。予習をさせて、それを授業中に他の人へ教えさせることは可能だが、授業時間的に無理がある。

内容は有益でしたか？



内容は活用できそうですか？



第2回CETLセミナー

第2回目のCETLセミナーは、5月19日(水) 4時50分から6時半にかけて、文系棟A424教室において19名の先生方が集まり開催されました。

セミナーでは、「図書館活用の指導法」と題し、中央図書館の山口主事に、最新のデータベースシステムについて、様々な利用法をご提案頂きました。紙媒体の文献資料を収集・保管する場

所という古いイメージを払拭し、学習・研究活動支援の中核としての図書館の具体像が示されたと思います。



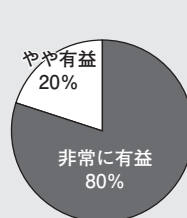
山口喜一郎 図書館主事

参加者の声 (アンケートより 回答者数=10)

- ・率直な感想は、本学の図書館の電子化が非常に進展していることに驚きました。研究やゼミで大いに活用したいと思います。
- ・本学の図書館が実に意欲的に改革に取り組まれていることがよくわかりました。とにかく使ってみようという気持ちがかかるセミナーでした。
- ・無料で使用できるDB、EB、EJが多いことが分

かり、有益でした。学部生、院生にもこれらを使いこなせるようになってもらいたい。研究・調査等に活用できるはず。

内容は有益でしたか？



内容は活用できそうですか？



第1期アドバイザー研修開催報告

CETLでは平成21年度GP採択事業の一環として、学部のアドバイザー担当教員を主な対象にした講習会を始めました。第1期にあたる本年2月～3月の研修では、参加優先学部である経済・経営学部の先生方、延べ50名が春休みを返上して参加されました。行なわれた講習は次の2種類です。マインドマップと呼ばれる思考整理ツールの活用法を学ぶものと、アドバイザーが多少とも学生とのコミュニケーションを効果的に行うためのラポール（学生との相互信頼感覚）醸成に役立つ話し方や聴き方を学ぶものです。さらに、コミュニケーションスキルについては、入門編と初級編の2段階を提供し、よりしっかりスキルを身につけたいという先生方の要望に応えています。

マインドマップ研修は2月9日（火）と3月8日（月）の2回、ブザン協会公認マインドマップインストラクターの上田誠司さんに講師をお願いしました（参加者合計26名）。また、コーチング研修は入門編を2月10日（水）、3月12日（金）、17日（水）の3回（参加者合計17名）、そして初級編を3月13日（土）と18日（木）の2回（参加者合計8名）、実施しました。こちらは米国NLP協会認定トレーナーの杉本薫さんに講師をお願いしました。

どちらの内容もCETLが提供する個別指導に深く関連しています。マインドマップは教科書やノートをまとめたり、レポートの構想を描いた

り、効率的な学習を進める上で有益な道具です。さらに、週間予定などタイムマネジメントの道具としても活用できる汎用性の高いものです。そして、白いノートに鉛筆で黒く文字を書き連ねていく従来の勉強のイメージから離れ、色鉛筆やカラーペンを使って絵を描くように、内容の関連づけを行う、新しい学習活動を可能にしてくれます。そのため、GPAが低い学生にとっても使い勝手の良い、新しい勉強道具になるのではなかろうかと考えます。

コーチングは、学生に自らの課題を自覚させ、その解決や達成に向けた手順・方法を一緒に考え、その取り組みを見守り、支援する活動です。そして、入門編ではコーチングの前提になる教員と学生との信頼感を醸成するコミュニケーションのための、傾聴や効果的な質問の仕方などについて学びます。

CETLでは、こうしたアドバイザー研修会を夏休みや春休みを利用して、順次開催していきます。次期の参加優先学部は文学部と教育学部の予定です。



マインドマップ研修会の様子

SA研修会報告

本学では初年次教育の柱として、各学部で基礎ゼミが行われています。特に、今年度から学

習ポートフォリオが全学実施され、その活用支援に基礎ゼミSAの採用が進んでいます。CETLではこの展開を受け、学部からの要請に応じたSA研修を提供することにしました。この春は

新学期開始の直前、3月26日に文学部、29日経営学部、30日経済学部の順に、90分程度の研修を行いました。それぞれ、少しずつニーズが違っていたのですが、基礎ゼミの意義やねらい、そして学習アドバイスのポイントなどの確認を行いました。今後も学部の要請に応じて、適時、SA研修を行っていきます。



SA 研修会の様子

新センター員紹介

今年度からセンター員体制を一新し、CETL内の部門ごとに、その活動に適した先生方を願ひする形としました。CETLには現在、FD推進、ICT活用推進、学習スキル育成、調査・研究の4つの部門があります。そして学習スキル育成部門と調査・研究部門では、4月27日のお昼休みを利用して、新しいセンター員の顔合わせを行いました。学習スキル育成部門は、GP事業としてCETLが行う学習スキル育成支援活動を企画・推進するところです。この部門のセ

ンター員は、それぞれが何らかの学習スキルに関する専門性を持った先生方です。

一方、調査・研究部門では、国内外の教育改善・学習支援に関する新しい動きや情報を収集し、今後の本学の教育に活かしていく仕事になります。様々な大学や団体が行う公開シンポジウムやフォーラムへの参加、そして大学視察などに積極的に取り組んでいただきます。今年度、センター員をお願いした方々は以下のとおりです。

学習スキル育成部門			調査・研究部門			
園田 雅代	教育学部教授		碓井 健寛	経済学部准教授	大塚 望	文学部准教授
鈴木 将史	教育学部教授		杉本 一郎	経済学部准教授	村上 信明	文学部講師
久保田秀明	教育学部教授		野村佐知代	経営学部准教授	川井 秀樹	工学部准教授
石丸 憲一	教職大学院准教授		三宅 利昌	法学部准教授	今村 弘樹	工学部准教授
尾崎 秀夫	文学部講師		足立 広美	教育学部講師		

編集後記

例年に比べ、ひと月遅れになってしまいましたが、今年度第1号を漸く発行できました。CETLの教育改善・学習支援が急速に拡充しているのを実感します。(S)

CETL Quarterly No. 39
編集・発行

創価大学 教育・学習活動支援センター
〒192-8577 八王子市丹木町1-236
Tel : 042 (691) 9782 内線 2146
E-mail : cetl@soka.ac.jp
<http://cetl.soka.ac.jp/>